

# 耕作放棄地実証ほ事業に係る実績検討会

日時：平成 23 年 3 月 3 日（木）午後 1 時 30 分～

場所：北秋田市坊沢公民館（北秋田市坊沢字善千鳥坂 17）

## 次 第

### 1. 開会

### 2. あいさつ

北秋田市地域耕作放棄地対策協議会 事務局

### 3. 事例報告について

#### ① 事業概要

説明者：北秋田市地域耕作放棄地対策協議会 事務局  
（北秋田市産業部農林課農業振興班）

#### ② 技術概要について

説明者：秋田県北秋田地域振興局農林部普及指導課

#### ③ 小畦立て栽培、管理等を実施してみたの感想

発表者：（農）ぼうざわ営農組合

#### ④ 質疑応答等

### 4. 閉会

耕作放棄地実証ほ事業実績検討会  
(出席者名簿)

	所属	役職	氏名
1	(農)坊沢営農組合		寺田 一徳
2	北秋田地域振興局農林部普及指導課	主査	片野 英樹
3	鷹巣町農業協同組合営農部担い手課	課長	佐藤 徳隆
4	北秋田農業共済組合農産課	課長	太田 昭博
5	北秋田市土地改良区連絡協議会		長岐 洋一
6	北秋田市農業委員会	主査	小塚 重光
7	北秋田市農業委員会	主任	鈴木 潤
8	北秋田市地域耕作放棄地対策協議会事務局(北秋田市産業部農林課)	主査	富谷 和史
9			
10			

## 大豆栽培実証ほ委託事業概要

- 1.実施者住所氏名 秋田県北秋田市坊沢字善千鳥坂86  
農事組合法人 坊沢営農組合  
代表理事 長崎 克彦
- 2.実証ほの所在地(面積) 秋田県北秋田市坊沢字深関沢尻116 (11a)
- 3.栽培管理の状況
- (1) 栽培品種 リュウホウ
- (2) 再生(排水対策) 伐採・耕起・田面整備等 3月31日～4月3日  
明渠設置 4月4日～6日 バックホー  
(H21年度繰越事業)
- (3) 肥料散布量等 特になし
- (4) 農薬散布作業 4.9ml/10a 6月3日  
(キヒゲンR-2フロアブル:種子消毒兼鳥害被害防止)
- (5) 耕起作業 6月26日 トラクター
- (6) 播種作業 種子 4.5kg/10a 6月26日 トラクター  
(小畝立て播種)
- \* 小畝立て播種に要したロータリーの爪交換作業は、  
メーカーに委託した。
- (7) 除草剤散布作業
- ・ エコトップ乳剤 450cc/10a 6月26日
  - ・ ラッソー乳 98cc/10a 6月26日
  - ・ ロロックス水和 44g/10a 6月26日
  - ・ アラジン444 53kg/10a 6月26日
- (8) 培土作業 7月22日 トラクター  
7月23日 トラクター
- (9) 草刈り作業 8月30日
- (10) 農薬散布作業
- ・ パーマチオン水和 49g/10a 8月30日
  - ・ ハイテンパワー 12cc/10a 8月30日
  - ・ トップジンM水和 98g/10a 8月30日
- (11) 刈り取り作業 11月21日 コンバイン
- (12) 選別(乾燥調製)作業 11月22日  
11月24日
- (13) 搬出作業 11月24日 トラック
- (14) 出荷作業 (→JA鷹巣町) 11月24日 トラック

出荷内訳

出荷量: 226kg		
2等: 2kg	3等: 180kg	合格: 30kg

## 再生利用と実証ほの設置を契機に事業の普及拡大

<b>概 要</b>	取組主体名	農事組合法人 坊沢営農組合	地 区 名	坊沢字深閑沢尻
	解 消 面 積	11 a	取 組 年 次	平成21年度～22年度
	解 消 内 容	再生事業及び実証ほの設置	導 入 作 物	大豆
<b>発生要因</b>	土地所有者が離農し、耕作しなくなったため放棄地化された。			
<b>取組の契機</b>	<p>当協議会では、管内の耕作放棄地解消を図るうえで、再生後の農地が永続的に営農されるための条件として、比較的良好な農地の立地条件、そして再生後農地の担い手の確保を重視して、候補地の選定を行っていたが、この条件を満たす耕作放棄地として、当ほ場を選定した。</p> <p>特に、担い手確保という観点では、近隣の農地において大豆作付けを大々的に行い6次産業化を進めている(農)坊沢営農組合は、今後の事業の普及啓発等を図るうえでは、モデル事業の受け手としては最適であること、また(農)坊沢営農組合が一体的効率的に営農を行っていくうえで、当該農地の営農を推進したいという意向が、当協議会の意向にも合致したこと、土地所有者との賃借等の調整も図れると判断したので、実証ほ事業に取り組むこととした。</p>			
<b>取組内容</b>	<p>雑木の侵入した耕作放棄地を再生整備し排水対策技術を導入した大豆の栽培実証を行い、展示ほ場として耕作放棄地解消の機運醸成を図った。</p> <p>H21～耕作放棄地の再生作業</p> <p>H22～小畝立て栽培等の技術実証(栽培管理、生育状況記録)、</p> <p style="text-align: center;">各種情報媒体を活用した事業PR(予定)</p>			
<b>課 題</b>	<p>取組前の想定課題として、受け手との土地賃借等に係る調整が難しいと思われた。</p> <p>取組前の想定課題として、実証ほの大豆の収量が、平均値よりも少なくなるのでは。</p> <p>取組後の課題として、今後の果実をどのように地域農業に反映させるのか。</p>			
<b>解決方策</b>	<p>取組前の土地賃借等の課題へは、使用賃借により対応した。</p> <p>取組前の大豆収量の課題については、小畝立て播種により幾分解決した。</p> <p>取組後の課題へは、この実証ほから収穫された大豆であることのPRを、どのような出荷段階で図れるのかを検討し、更なる耕作放棄地解消の機運醸成につなげる。</p>			
<b>取組の成果</b>	<p>この実証ほの経営展開に伴い、近隣の農地を一体的に耕作出来ることとなった。</p> <p>小畝立て播種による大豆収量が、平畝播種よりも良好であることが確認され、今後の更なる農業経営向上に寄与出来る可能性が生まれた。</p>			
<b>コメント</b>	<p>今後は事業のPRを図り、農家による関心度を高めたい。</p> <p>土地の出し手と受け手のマッチング、農地の立地条件等、耕作放棄地の解消に向かうための条件を満たしたほ場の確保が難しいと感じた。</p>			

**耕作放棄地解消に向けた実証事業（坊沢分）・・・再生前**

坊沢字深関沢尻 116 1,147 m<sup>2</sup>



実証ほ設置 再生状況

所在：北秋田市坊沢字深関沢尻 116 番地 (1,147 m<sup>2</sup>)

(撮影年月日：平成 22 年 4 月 3 日)



実証ほ設置 栽培管理状況

所在：北秋田市坊沢字深関沢尻 116 番地 (1,147 m<sup>2</sup>)

大豆小畝立て播種状況 (撮影年月日：平成 22 年 6 月 26 日)



大豆生育状況（撮影年月日：平成 22 年 10 月 20 日）





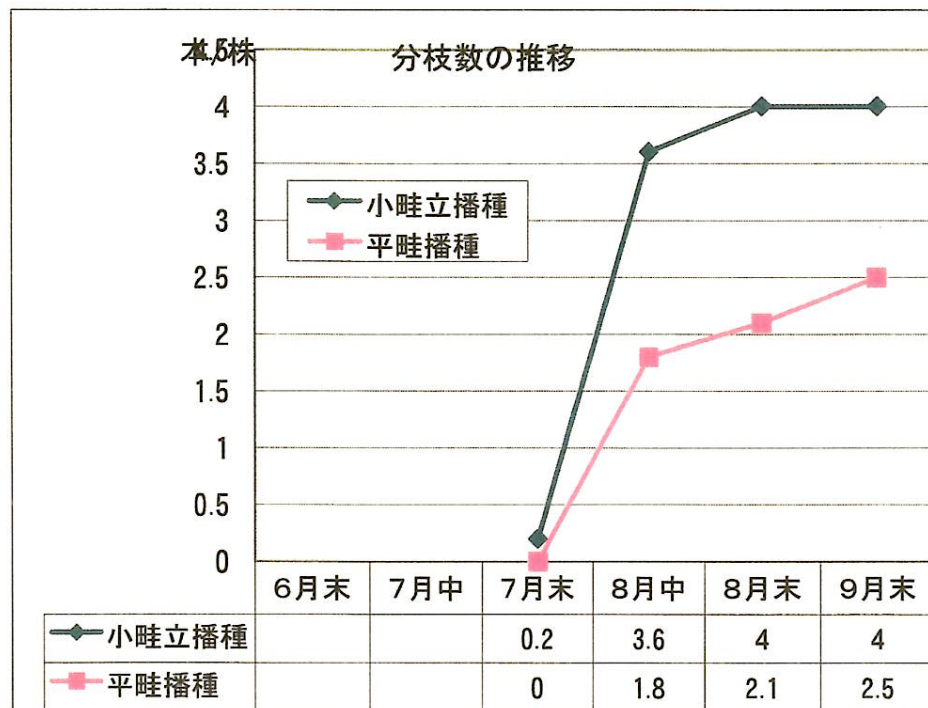
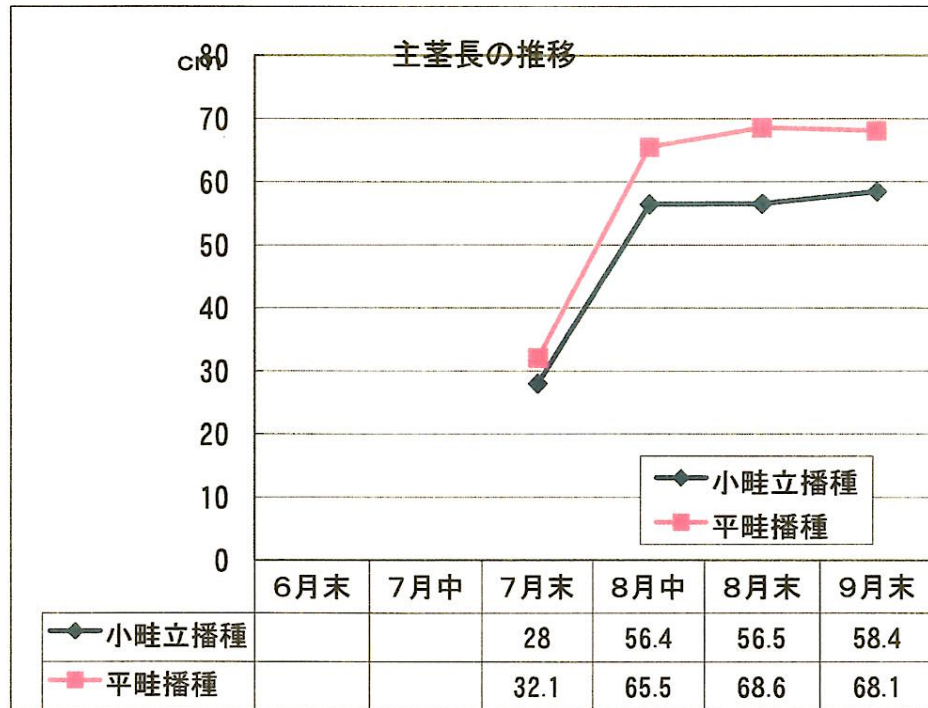
# 耕作放棄地再生利用緊急対策実証ほ成績 (北秋田市坊沢)

## ★耕種概要

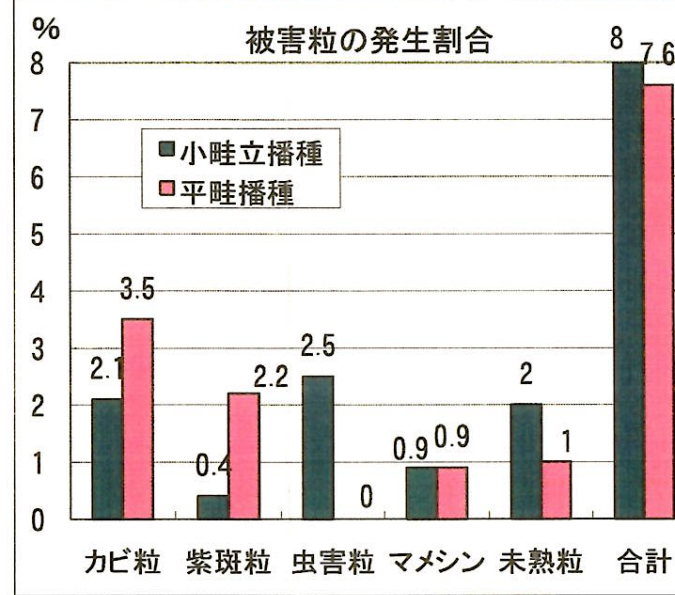
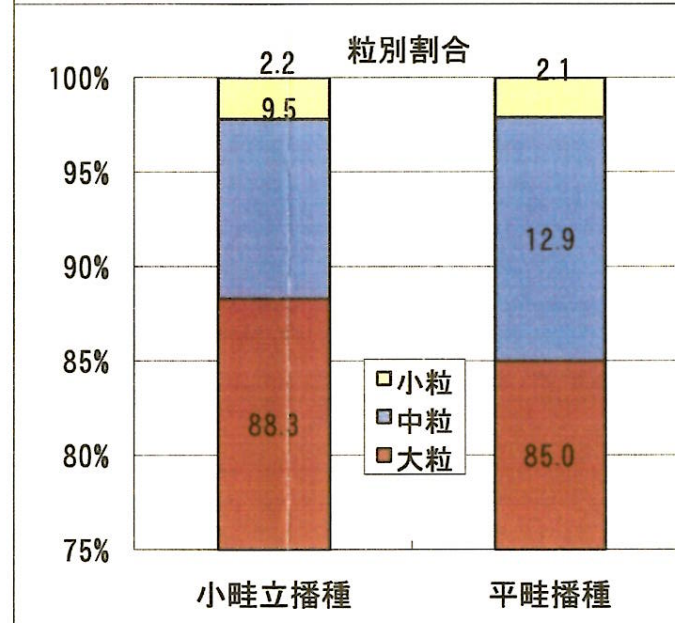
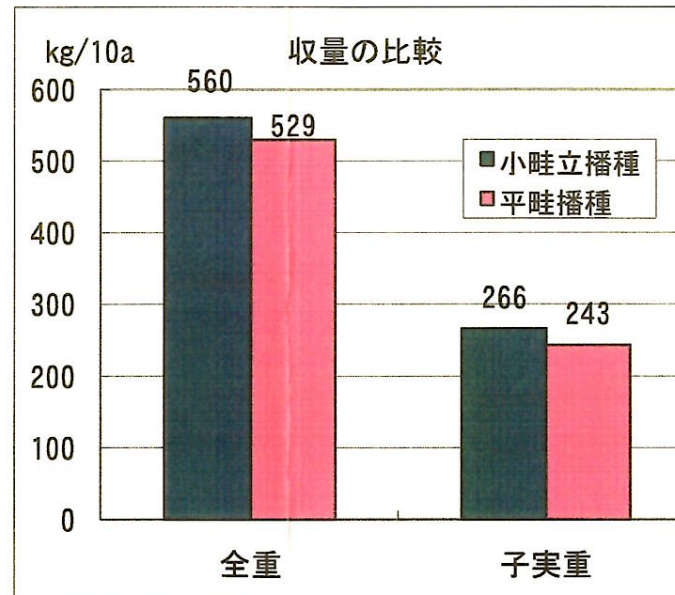
実証内容：小畦立て播種技術  
 実証面積：11a  
 供試品種：リュウホウ  
 播種量：4.5kg/10a  
 施肥体系(10a当たり)：アラジン444…53kg/10a  
 除草体系：6月26日除草剤散布(エコトップ)→7月22～23日1回目培土  
 防除体系：8月30日殺虫殺菌剤(ブームスプレーヤ)

## ★生育の概況

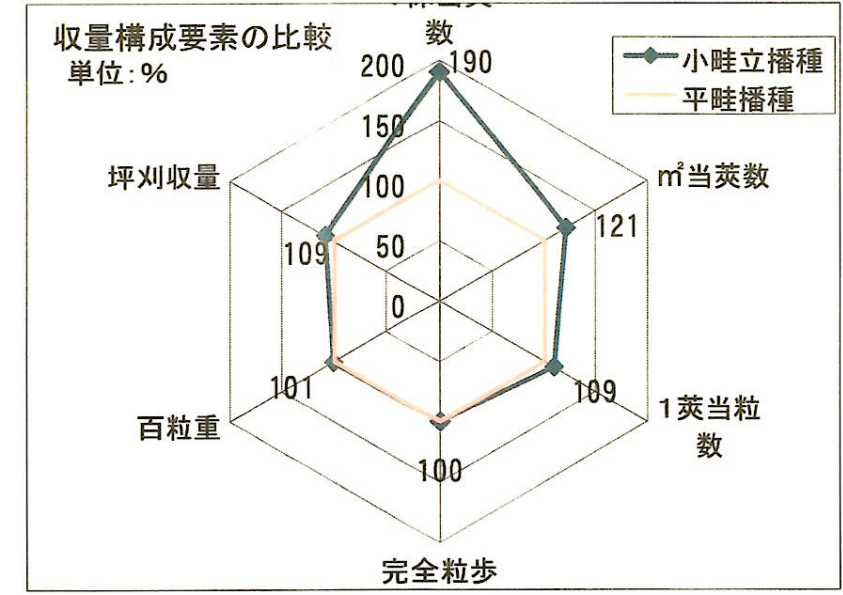
	栽植密度	播種日	開花期	成熟期
小畦立播種	9,060本/10a	6月26日	8月9日	10月15日
平畦播種	14,238本/10a	6月26日	8月9日	10月12日



## ★収量調査



## ★分解調査



	1株当莢数 (莢)	m²当莢数 (莢)	1莢当粒数 (粒)	完全粒歩合 (%)	百粒重 (g)	坪刈収量 (kg/10a)
小畦立播種	46.4	420	1.72	92	33.5	266
平畦播種	24.4	347	1.58	92.4	33.1	243

## ★まとめ

- 主茎長は7月下旬で差が見られなかったが、8月以降生育に大きな差が見られた。
- 分枝は播種が遅かったことから発生が遅れたものの、小畦立て播種実証区の発生が多くなった。
- これは平畝区の栽植密度が高かったため、主茎長は長めとなり、分枝数は少なくなった。
- 小畦立て播種実証区の1株あたりの莢数が多かったが、栽植密度が低かったため、m²あたりの莢数は平畝区よりやや多くなった。百粒重は平畝区並であったため、坪刈り収量は266 kg/10aで慣行比109%となった。
- 粒別割合は両区とも大粒割合が高かった。
- 被害粒は作付け初年目のほ場であったため、マメシクイガの発生は少なかった。

## ★次年度の管理

- 排水対策
  - 全ての適期作業は排水の良否にかかってくる。
  - ひきつづき額縁明きよは必ず施工しましょう。
  - 表面排水を促すために、畝間を明きよに必ずつなげよう。
- 雑草防除
  - 除草剤の散布適期を逸さない、散布ムラを発生させない等適正散布を心がけよう。
  - 碎土率が向上すると除草効果も高まる。
- その他
  - 品質向上(シワ粒対策)のために、6月中旬～下旬(梅雨入り前)に播種する晩播栽培も有効。
  - シワ粒対策のため乾燥機の調整を行おう。